

資料—2

2024年9月定例会シェアにのみや・意見交換会の記録で出された意見・質問

1. 9月定例会の概要と決算審査説明に対する会場の質疑応答

(10月30日)

(参加者) 葛川で被害を受けたものです。広報で見たら、ちょこっと触れただけ。非常事態の時は最優先でそれに着手するのが当然。被害受けたがその後のフォローが淋しい。町としては被害者に対してどれだけやったのか聞きたい。

(参加者) 現状を見に来てほしかった。泥は自分達がやれ。町来たけれど。動物病院はずっと一人でやっていた。3週間ぐらい片付かず。川の氾濫では泥が重いし。知ってほしかったし見に来て欲しかった。

(議会) 今回は決算審査で。議会もずれ込まず通常でやった。議会の声はまとめて町に届けているところ。防災・減災についてはこれからしっかり詰めていくところ。

(参加者) 旧道には来てもらえなかった。ブロックのところで子どもはケガをしたのに負傷者は一人もいなかったなど言われて。行政職員が来なかった。罹災証明などのやり方も知らなかったりするし。もう二度とあんな思いはしたくない。今後にむけてちゃんとやってくればよいです。

(議会) 今回だしてもらったことにはきちんと返事を出す。議会としての回答をするので出してください。

(11月8日)

(参加者) 大磯は議会開催を延期した。二宮はできなかったのか。ラディアンで子どもの権利のイベントをやり、被害に合った者がいるので優先順位が違うのではないと思った。そのあたりどんな段取りだったのか。きれいになってからくるんじゃないかとケアできたでしょ、猜疑心だらけである。1週間前にも雨が降った。一色あたりから濁流が来るんだらうということで見回りにも行った。対応があまりにも遅いのではないと思った。ラディアン周辺はすぐ水が下がったからなんでもないというが、私たちは大変であった。花月橋から大応寺のところは何かやるということで手紙がいつていると聞いた。そのこともどうなのか知りたい。トラウマになっている。皆さんは商品がどれだけダメになったか商品がどれだけダメになったか把握していないでしょう。町は、罹災証明を出さなかったところには来なかったようだ。30年前から全く変わっていない。状況はもっとひどくなる。11月に台風が来るんじゃないかとピリピリしている。

(議会)花月橋から大応寺の河川整備について、近隣住民に手紙配布して行った内容。県は11月24日に葛川改修工事に関して、土地権利者を対象に説明会を開催予定であり、そのことを対象世帯に手紙としてお知らせした。 広くお知らせすべきとの意見をもらったので、12月8日に、全町民対象に説明会を開催することとした。(11月25日付広報で、お知らせする予定)

(参加者)当時の行政の動き。一帯の人たちにお知らせしてほしい。

(参加者)議会報告会に来る人数がすくなくて非常に残念。税金も使っているでしょう。

(議会)もっと、町の出来事に関心をもって頂けるように腐心している。その中で議会報告会も続けている。

(参加者)決算が例年より余ったのではないか。2億円ぐらい多いと思う。町民サービスでできたことが他にもあったはずなのでは。

(議会)執行残については各議員質問している。足りなくなったらどうしようもないし、基金を積み立てるのも大事。

(参加者)災害対策費、何に使っているの？平塚では見舞金も15万円。二宮では1万円でしょう。それもあまりにも、えっ？と思う。知り合いに来てもらって片付けとかしたら1万円とかはごっそり消える。災害適用の損害額も、大磯、平塚などに比べて二宮の額は少ない。災害対応の補正予算算定にあたり、発災直後の調査が十分なされたのか。善波峠のところは3千万円。大磯は5千万円。

(議会)大磯は山崩れの箇所も多く、被害が大きかった。金額だけの比較はむずかしい。被害程度が大きく異なるため、災害対策予算について、平塚、大磯、二宮で比較できるものを都市部に求める。

(参加者)議会として情報の共有はしないのか。議員間の議論が足りないといつも思う。対応についても、町と一緒にやっていかないとじゃないのか。

(議会)各地区での状況を皆で共有するのはやっているが、他市町を調べてのところまでは今回やっていない。災害対応で指揮系統が混乱することは避けるべきと考えている。議員の情報はそれぞれの場面でしか見ていないのでそれぞれの情報を伝えたり要望を伝えたりするが、災害対策と言う意味では行政のほうに一本化しようという考え方でやっている。震災も水害も基本的には一緒。議会の対策マニュアルも更新したところだ。

2. テーマ別の意見交換会

■ 防災 ■

(10月30日)

① 全般的事項

- 葛川の溢水を巡っては、死者が出なかったから大問題にならなかった。
- ハザードマップに示されている想定は 94mm/h。今回は 62mm/h
- 次の線状降水帯はすぐにやってくる。
- 葛川設置のカメラは24時間稼働しているが夜は見える？

② 武井案

- 武井氏による地下タンク利用による防水に関する提案があった。これは大雨による増水に対し水を一時的に地下にためるというもの。都内には首都圏外部放水路が設置されていて、このアイデアを二宮にあてはめて、所謂「二宮ミニ版」と考えて頂きたい。この地下貯水槽はラディアンの地下に設置したい。費用に関しては町だけではなく県にも負担願いたい、先ずは町の合意ありきである。
- 県の治水計画のネックは JR 下の工事が困難なことにある。遊水池の設置は地上部分を占有するのでハードルが高い。従って、貯水槽は有効である
- かつて、トンネルのより放水する案があったが、民地にトンネルを掘削することはハードルが高い。

③ 職員・議員の対応

- 被災者からすると、議員が動いていた認識がない。
- 行政防災無線が機能せず、スマホはもっていない人もいる。従って消防の声掛けが重要である。消防団に待機命令が出ていたことは遺憾である。
- 議員が声を聴いて回るしかない。地震により二宮は壊滅する。
- 役場職員は被災地に当日来ていない。町の軽トラを見かけたがただ回っているだけ。
- 職員は一色小の裏の現場にいたが、ラディアン周辺は放置されていた。
- 以前は消防団が動いていた。

- 水位上昇、溢水の警報が遅かった。早く知らせてほしい。
- 町は議員より町民の声を聴きたがる傾向がある。(議員が何かを言っても、地区要望の有無を聞いてくる。)

④ 宿題

- 県道は災害指定道路である。指定された際に一般人の通行がどの程度許されるのか？町民に周知する必要がある。町に確認する。
 - (その後の確認) 県道と国道が災害発生時の「緊急輸送道路」になります。対象は地震災害で、風水害は含まれません。緊急車両を優先するために、一般車両の通行が、禁止を含めて制限されることになります。

(11月8日)

① くず川治水

- 被災者が町に問い合わせたところ、ホームページを見ろと言われた。余りに失礼。
- 排水のためには排水口の掃除が大切。詰まっていたら機能しない。
- グレーチングが詰まっていたので掃除をしていたら、危険だからやめろと言われた。
- 先週再度確認まとまった降雨があり、消防署の辺りで約 10 センチの水が溜まった。
- くず川は歴史的に水害に弱い。
- 県のくず川治水が進んでいない。
- 地下調整池を造るとする武井案が紹介された。
- 宅地開発に際して排水を考えていない。
- 中井の工業団地開発による水が心配。
- 花月橋下の水道管が流れの妨げになっている。
- 工事だけでなく、調整池の整備が大事。
- 被災者から見ると、くず川の治水よりラディアン周辺整備を優先しているように感じられる。

② その他

- ラディアン、庁舎、財政は大丈夫か？
- 防災に対する事業債はある。
- 毎年基金は増えている。

■ラディアン周辺行政機能集約事業■

(10月30日)

① ラディアンについて

- ホールをもっと有効的な活用にし、利用回数を増やす取り組みを。(外部委託、コンサルを入れるなど)
 - ホールを単に貸出だけではなく、自主事業も行なってほしい。
 - ラディアン全体を災害時に利用できるようにする。
- ラディアン周辺基本計画策定予算の議決後は、総務建設経済常任委員会を中心に庁舎機能について調査・研究を進め、議会全体では視察や情報共有をしながら意見集約をしました。議員は、町民に議論が見えるよう本会議での一般質問や総括質疑で取上げた以外にも、ラディアン周辺計画や災害対策については、担当部局と質疑応答する機会を重ね、研究をしてきました。対立を超えた合意形成をめざして、今後もさまざまな事で、議論を深める機会を捉えて参ります。

② 計画全体について

- 計画を進めるための合意形成をどのようにとっていくか。(計画の反対者とうどう折り合いをつけるか)
- 計画の見直しをしてほしい。→すでに8年をかけ、合意形成を執ってきた。12月には土地取得費と、実施設計の予算が議案として出される予定と返答
- 孫の代まで、負の資産を残すのか。→年間9千万円の庁舎整備基金の積み立てと同額の返済予定。
- 実際の借入は20億程度を20年で返済予定と返答。
- (庁舎は)現在ある施設を利用したらよい。

③ その他

- 温水プールの施設活用はどうするのか。→マーケットサウンディング調査を行うため、業者を募集中と返答。
- 災害時には町全体で、町民を含めてエネルギーを共有してはどうか。
- 災害ボランティアは事前に町内で登録募集しておく方が良い。

(11月8日)

① 計画全般について

- 計画についての説明不足
- 現在の庁舎跡地はどうなるのか→庁舎移転の予算が可決されてから検討する。駅前庁舎整備を終えてからの検討と回答
- 基本設計が可決＝建設決定と理解していた。
- 果樹公園は廃止するということか→一部の果樹は残すと回答。
- 計画は再考すべき。
- なぜ建物ばかり作るのか。
- 庁舎の場所は本当に計画の位置で良いのか。※浸水エリアである。
- 今ある学校を庁舎に使えないのか。
- 町民の利用しやすい公共施設になっていない。＝町全体に柔軟性がない。

② 計画の不安要素について

- 庁舎を建てるのであれば水の処理を考えなくてはならない。(コンクリートの建物が増えれば水が増える)
- 浸水被害があることを認識していないのではないか。
- 地震と水害が一度に起こった時にはどう対応するのか。
- 県道は緊急時の輸送道路となっているが浸水したら通れなくなる。
- 建設しても安全な庁舎にしてほしい(浸水等)

③ その他

- 庁舎建設について、議員全員で話し合う機会は持ったのか。もっと議員間での議論を深めてほしい。
- 他の自治体の被害対応や対応に支出した金額を調べ、二宮と比較してほしい。

■子どもの権利■

(10月30日)

南アルプス子ども村小中学校プロジェクト

長野県グリーンヒルズ小中学校(バカロレア)

成績は子ども達が評価

- ① 小中一貫校で、どうやって実現するのか？
 - 一人も取りこぼさないとは、どういうことか？
- ② 部活
 - 野球部に入りたい。二宮中に行きたい。
 - 自転車通学もダメ、部活止めたら西中に戻らなくてはいけない。
 - 担当の先生がいないと、部活がなくなる→生徒を尊重してほしい。
 - 部員が10人集まれば、部ができる。→担任がいないとダメ。
 - 大人がルールに縛られている。
 - 子ども達にルールを作らせるべきだ。
- ③ 先生・クラス・学校
 - 自由、自然、生き生きとしたクラス
 - 最優先は、子どもが安心して生き生きとできること
 - 先生が元気になる。先生の負担を減らし、個性を活かせる。
 - 先生がのびる体制の研究
 - 職員室は緊張感が高まっている。

- 成績(評価)は、小学校は付けなくていい。

- 運動会にお楽しみプログラムがない

④ 子どもは意見を言えるのか

- 自分の考えを持っていないまま中学生になっていく。
- 自分の意見を持たない子どもに育っている。
- 自分たちが(子どもたちは)主体だという感覚はない
- 先生の顔色を見ての意見
- 主体性まで先生が求めるものになっている。
- やらされている圧 先生の努力 先生の評価

⑤ 外国は？

- アメリカの1年生のクラスの椅子はバランスボール
- できる合理的な配慮は、沢山あるはず。
- 体育は(国、外)体を動かすことが楽しいと生涯通して思えることが大事

(11月8日)

① 被災

- 被災があったが、子ども権利フォーラムは必須
- 被災者からの意見、情報も得た
- 子供にとっての被災
- 周囲が子どもを被災時にいかにケアするか
- 大磯の被災者がメンバーだった
- 避難所物資地域ごとに(赤ちゃんのものなど)マップに表現
- すでに団体が多くつながれた効果。
- 各課とフォーラムが話す(コミュニケーション行政も含める)
- 議会も関わり沢山の議論が必要

- 多様なフラットな意見交換の後に二宮型を
- タブレット上のアンケートだけではダメ
- 子ども達に、聞いてもらえるという土壌をつくる

② 意見を聞く

- 小中一貫の説明会を子ども中心にやるべき。
- 放課後子ども教室で子どもの意見を聞くことをはじめた。
- 学区にひとつ、プレイパーク(登下校中)
- 顔の见えない大人に意見はいえない。
- 学区について子ども声を聴く場がない。
- ニーズの強い子どもの声は取れてない。
- 本当に(保護者にも)声を聴いているか。
- 若者は意見を持っている。ZOOM から
- 柔軟性が必要
- 自由を履き違え、信頼がない。
- 子ども達のチャレンジ失敗 納得
- 最初からルール ルールさえ子どもは決められない
- 子どもが関わることに、意見を聞かない。
- 子どもたちが自由にいられる場で意見を聞く
- 子どもがいる現場に上着を脱いで話に行く →意見がきける
- 大人の負担でなく子どもたちに任せる場
- 親の世代も自分達もきかれてない世代
- どこに助けを求めてよいか「いつでもどうぞ」窓口
- 庁舎にも期待
- 児童館の役割

- 放課後子ども教室はふらっと来られる場ではない
- 都内は学校に責任のない児童館がある。
- 子ども条例がないと、軸がない。

③ 町と地域でできること

- ご飯の質 生活の本音、真実
- 子ども権利フォーラムは、ぬり絵でコミュニケーション
- ご飯が幸せな時になっているか
- 幼保から 18 年のかかわりかかわれる誰か。昔はあった。
- 条例制定に向け
- 自由に管理、能力を発揮できる言葉「不登校」